

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 2月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3474800376
法人名	社会福祉法人 総領福祉会
事業所名	グループホームみら屋
所在地	〒729-4304 広島県 三次市三良坂町三良坂1789-2 (電話) 0824-44-3008
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	〒734-0007 広島県南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成22年1月29日

## 【情報提供票より】(平成21年12月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤	8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.5

### (2) 建物概要

建物構造	木造 ( 造り ) 敷地面積 1093.55㎡ 延べ床面積 282.48㎡ 2 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	---

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高場クリニック 市立三次中央病院 備北ななつか病院 市立湯が丘病院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「みら屋」は、棟続きで小規模多機能の「三良坂」と併設されている。国道や県道から見上げた丘の上の墳丘公園に隣接し、西側には段が丘団地が県道まで続いている。ホームの建物は、改装型であるが古きよき物を活かしながら、多くの入居者がほっとする環境作りとなっている。全職員は、日々の関わりの中で入居者一人ひとりの覚えたい気持ち、やりたい気持ちを大切に、ゆっくりと、一歩ずつ、繰り返しながら、本人が新たに自分らしく生きていくチャンスを作られている。母体組織や関連の事業所との連携のもとで、地域の中では福祉・介護の拠点となっており、地域の方々への大きな安心と信頼が伺えた。利用者も家族も幸せな日常を「一緒に大笑い 楽しい一日ありがとう」を掲げて、管理者と職員は支援に取り組んでおり、明るく生活感に溢れたホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で話し合われていた、地元自治会との交流はもう少し時間を要するようであるが、根気よく継続して入居者が地域で暮し続けるための基盤作りに取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所全体で自己評価の意義や目的をよく理解した上で取り組まれており、評価を活かして具体的な改善につなげている。また、外部評価の結果は、全職員に伝え、運営推進会議で結果を公表し、そでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る貴重な機会となっている。会議では、入居者の方からの意見や思いも話していただきながら、改善に向けて一つひとつ積み上げていくようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には訪問時や運営推進会議等で常に問いかけ、意見・苦情は前向きに受け止めて活かしていく事業所の姿勢が伺えた。常日頃から、全職員は家族といっしょに介護を乗り越えるためには、家族の声と力を活かすことをよく理解した上で、貴重な情報や気づき、願いを教えてもらっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者一人ひとりの「望む暮らし」というニーズの発生に対して、常日頃から地域の中にある商店や、中学校等と関係を持ちながら、ニーズの実現に取り組まれている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「住み慣れた馴染みの風景の中で、仲間やスタッフ、町の人々との触れ合いを通して、自由な気持ちで自身の能力に応じた役割のある自立した暮らしをする」と謳われている。この理念を掘り下げて「一緒に大笑いができ、楽しい一日に感謝する」を目標とし、全職員が共有しながら支援に取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は、日々の関わりが理念に沿ったものとなっているかを意識し、また、事業所の会議をつうじて話し合いながら、日常生活を入居者が安心して喜び合え、意義ある暮らしができるように実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の大きな行事(とんど、祭り)などに参加をしたり、時には近くの理容院に出かけたり、近隣のお寺さんの隣の法話を聞いている。地域の中学生の職場体験学習に来てくれるなど、地域と交流むすることに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価と外部評価の意義と目的をよく理解した上で取り組まれており、その結果は事業所の会議で話しあい、また、運営推進会議で報告しながら、率直な意見等を受けて、サービスの質の向上につなげている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での質疑応答は詳細に記録されており、議事録は全職員に回覧し、課題は話し合いながら運営全般に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の介護保険認定期間の更新や、変更時等の機会を捉えて事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には、本人の思い出アルバムに日常の暮らしぶりを書き添えて届けたり、家族の訪問時には声をかけ入居者の状況や家族のことについて話し合っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の入居者の立場に立って、家族の意見・不満・苦情を受け入れる雰囲気作りが出来ている。直接言いにくい場合は、運営母体の窓口を通じての対応も可能とする窓口の広い受け入れ体制も確立している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が代るときは、交代前後の入居者への説明や対応の仕方、新しい職員への引き継ぎ方などに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での年間研修計画が策定されており、全職員が研修機会を確保できる体制となっている。また、事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は、認知症実践者研修の実習者を受け入れ、地域の他同業者などと学習や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常日頃から、全職員はここはほっとする、なぜか懐かしくしてくつろげる、馴染みの場所となることに努められており、慣れ親しんできたものや、配置を大切にしながら、支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は、入居者の気持ちを大切に、対応する柔軟さ、温かさ、やさしさ等を共有しながら、入居者が安心して暮らせるように支援に取り組んでいる。91歳で短歌を作り短冊に墨書される文化の薫り高い入居者や、職員が入居者に茶室で御手前をする等よき日本文化と一緒に楽しむなどしながら、穏やかな時を過ごされている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接や日常の会話の中から、生活歴や時代背景を把握するように努め、家族情報にも留意し、入居者の意向の把握に努められており、安心した自由自在な生活が確保されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画書には、家族の意向や認定審査会の意見とサービスの種類の指定、総合的なサービスの指針が細かく記載されており、しっかりした計画のもとでのサービスである。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、ケア関係者の最新の情報や気づき、本人や家族の今の意向や状況を確認しながら、現状に即して見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診をして貰えるかかりつけ医が近隣にある。入居者や家族の希望により入居前の医療機関へ診察・治療が受けられる他、馴染みのクリニックや地域拠点病院まで多岐に渉る支援がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた事業所の指針を、入居時およびカンファレンスの際に説明を行っている。入居後は、状況の変化に応じて、ご家族との話し合いを行い、本人と家族の意向を常に確認して対応する体制が整えられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシー保護は、法人の個人情報規定に準じて行っている。特に、機関紙や事業所内に写真を掲載する場合は、慎重に対応している。日常生活支援における個人のプライバシーの保護については、職員は十分に周知対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、事業所の決まりごとを少なくし、個人のペースに沿ったゆったりとした生活を支援している。いままでの日常生活を思い出し、自分の家で行っていたことをこの事業所でも行っていただきたいとの考えのもとに、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから、食材の買物、配膳、片付けなどの食事一連の流れを入居者の意志や気持を大切に進めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をゆっくり楽しんでもらえるように、身体状況や本人の希望に沿って変更できる体制ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝早く自ら個室以外の掃除をされる男性の方や、洗濯物の取り入れを入居者をお願いするなど、力を発揮できる場面づくりが出来ている。庭の草取りや、季節によっては栗の皮むきとか柏餅作りも、入居者と職員が相談し、楽しみながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や、入居者の状態に合わせながら、食事の買物や散歩に出かけている。本人の要望で外出の依頼があれば、出来るだけ付き添い外出している。また、事業所の都合ですぐに本人の要望にこたえられない時には、必ず次の約束を行なうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は入居者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんでおり、見守りや連携プレーのもとで鍵をかけない支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に入居者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議等を通じて呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はホームで手作りしており、一人ひとりの状態に応じた調理方法で提供している。水分も3度の食事以外にも摂取していただけるよう声かけをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、快適に過ごせるように掃除が行き届いており、十分な採光と心地よい風が入るように配慮されている。入居者が共用空間で、自分の居場所が確保できゆったりと過ごせる環境も整っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使用していた家具などを持ち込み、気持ちよく暮らせるように支援されている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームみら屋

評価年月日 21 年 12 月 9 日

記入年月日 平成 21 年 12 月 10 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 末重 幸子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の住民の思いを含めた開設当初からの理念を、毎年事業計画やパンフレットにも掲載し、少しでも実現できるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常の場面、申し送り、事業所会議等を通じて話をしながら取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	取り組んでいるが、あまり積極的ではない。		地域に積極的に出て、説明会や認知症に関する勉強会等を開催していく。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物に出かけた時、声をかけたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事（お祭りやとんど、運動会など）に参加したり、中学生の職場体験実習を受け入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所会議等で、話し合いは行っているが、取り組みはできていない。		事業所の特性を生かした地域貢献ができるように取り組んでいきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を職員には事業所会議等で報告、運営推進会議でも報告し改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者からの意見や思いも、会議の中で述べていただき、サービス向上にいかしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	要介護認定更新時等、市役所(支所)に行った際、担当課や担当者と話をすることがある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶようになっているが、まだまだ不十分である。		研修会に参加したり、事業所会議等でも話し合いを持つようにし、理解を深めていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修や外部の研修等で学び、また事業所内でミーティング、申し送りなどで、勉強会を開催している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書に明記し、入居時に説明し同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営推進会議に利用者の代表として出席して意見を述べてもらったり、日常の場面でも耳を傾けるよう努力している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的に連絡をしたり、来所時には、日々の様子を伝えたりしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会に家族の代表として出席していただき、意見を述べてもらったり、来所時には声かけをするよう取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課を実施し、個人面談も行き、職員の思いや意見を聞けるようにしている。また、日々の申し送りや事業所会議等でも意見交換している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成し、場合によっては時間を変更する等、調整している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人全体で人事考課を行うなど、働きやすい環境づくりに取り組み、異動後もグループホームの運営に関わってもらうなど、工夫している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修、リレー研修など研修の機会を確保している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>認知症実践者研修の実習の受け入れを行い、職員が同業者と交流する機会をもっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>懇親会を開催したり、管理者が職員の個人面談を行い、意見を聞けるよう取り組んでいる。また、法人全体で人事考課制度を導入し年2回行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>法人全体で人事考課制度を導入し、年2回行っており、個々の努力や実績が反映されるように努めている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居前から本人と事前面接を行ったり、入居後も新しい環境に慣れていただけるように、声かけをしたり傾聴に取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から事前面接を行ったり、電話で状況を確認したり、入居後も新しい環境に慣れていただけるよう、声かけや状況報告をしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人、家族の思いを聞き、状況に応じて他のサービス利用についても情報提供し、他のサービス機関と連携をとっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居に際しては事前面接を行い、本人の状況をよく把握し、初期の段階では特に気をつけて声かけし、職員が間に入って他の利用者とコミュニケーションをとれるようにしている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「いっしょに大笑い、楽しい一日ありがとう」をモットーに昔ながらの調理法を教えていただいたり、昔話を聞いたり、歌を習ったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。また、口腔ケア、洗顔時に鏡を見て、一緒に笑えるよう日々を過ごしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居中の本人の様子をお話したり、あるいは入居前の様子を伺ったりしながら、本人が安心して生活していただけるように協力し合っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人や家族の思いを大切に、外出、外泊等の支援を行ったり、普段の様子をきめ細やかに伝えたりするように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊の支援をしたり、入居前から続けられている文化活動への参加を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の間に職員が入ってコミュニケーションをとりやすくしたり、起床の声かけや食事の声かけ等、利用者にしてもらったりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他機関との連携をはかるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を把握し、安心して過ごしていただけるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一人一人の入居者に担当の職員をつけ、その職員が中心となってアセスメントも行い、具体的な計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の申し送りや事業所会議等で、必要に応じて意見交換し、家族に相談しながら計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の状態を、具体的にわかりやすく記録するように努めている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の他のサービスも紹介したり、利用したりしながら、本人らしい生活ができるように努めている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて協力しながら支援を行っているが、まだまだ不十分である。		地域との協力関係が深まるように、運営推進会議等で協議しながら取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、行政や他のケアマネージャーと相談するなど、連携をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて連絡することはあるが、十分に協働できているとは言えない。		定期的に連絡や情報交換するなど取り組んでいく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	近隣にかかりつけ医（週1回往診あり）があり、また希望に応じて他の医療機関でも診察を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者の状況によってはこちらから受診し、専門医から助言をもらう。日常的には、かかりつけ医に相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の中に看護師を配置し、日常の健康管理が行えるようにしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	状態に応じて家族、医療機関と相談を行いながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に本人や家族の意向を確認し、状況に応じて話し合い、相談をしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>状況に応じてかかりつけ医等と相談しながら支援している。</p>		<p>最期までその人らしく、また安楽に過ごせるように、これから取り組んでいきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>事前に関係者間で話し合いや情報交換を行い安心して新しい環境に慣れていただけるよう努めている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>できる限り利用者の方の目線にたって言葉かけや対応をするようにしている。記録等も利用者の目の届かない所へ保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が選択するのではなく、利用者を選択していただく場面を作ったり、「してくださいませんか？」と依頼する、言葉かけする等、自分で決めて暮らせるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人一人のペースで生活できるように、外出や散歩も希望を聞きながら支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
( 2 ) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望を聞きながら、なじみの理美容院へ出かけられたりしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえや、後片付け等も一緒に行く。職員も一緒にテーブルにつき食事を楽しんでいる。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の希望を聞きながら、好みのものを楽しめるよう声かけしている。また10時、3時にはいくつかのメニューの中から飲み物を選んでいただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の声かけや介助、失禁等の対応では、本人が不安を感じないように、また他の利用者に配慮しながら行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を聞きながら、対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの居室でゆっくり休んでいただいたり、縁側や和室、食堂にソファを置き、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や庭の草取り等、手伝ってもらっている。季節感のあるお手伝い(栗の皮むきや、柏餅作り等)も楽しんでもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所持していただいており、外出時などお金が使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるだけ毎日散歩に出かけるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	要望があれば随時対応し、外出の機会を増やすよう心がけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいという希望があればかけてもらい、利用者に、年賀状をかいってもらったりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	個々の居室でゆっくり過ごしてもらっている。必ずお茶等を持って行き、声かけをするようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所会議等で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		さらに理解が深まるように、勉強会等に参加していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中はできるだけ開放している。玄関の戸に開けたら音がするようにしたり、職員が目配り、気配りをするよう心がけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	食堂の椅子やソファで記録をとったり、定期的に訪室しながら見守りができるよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて保管場所を変えたり、その物品に代わるものを準備したりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりハットレポートを使用し、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	研修会等でも勉強しているがまだまだ不十分である。		すべての職員が定期的に訓練できるよう取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っているが、十分ではない。		地域の人々からも協力が得られるような働きかけを行っていく。自然災害時の連絡先も誰もが周知できるように表示する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	個々の状況や変化に応じて、状況を家族に報告し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックをし、職員が出勤した時には必ず一人一人に声をかけて挨拶し、体調の変化や表情に変化などに注意している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の服薬に関して、用法、用量、目的、副作用がわかる表を作成し周知を図り、確実に服用できるよう支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	出来るだけ薬に頼らないようにセンナ茶を服用してもらったり、水分摂取にも気を配っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声かけ、介助を行っている。定期的に義歯をポリドント洗浄したり、必要に応じて歯科受診している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事はホームで手作りしており，一人一人の状態に応じた調理方法で提供している。水分も3度の食事以外にも摂取していただけるよう声かけをしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	法人全体でマニュアルを作成し，予防に取り組んでいる。手洗い，うがいも励行し予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具等の消毒を行ったり，冷蔵庫，食品庫の整理をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関廻りの建物が民家を移築した物になっており，鉢植えを並べたり，木の温もりのある表札をかけたたりしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物になっており，懐かしい雰囲気がある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチ、椅子などを共用空間や廊下などに置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族に働きかけ、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	時間を決めて1日3回は換気し、食堂には温度計を設置して温度調整や空調に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各要所へ手すりを設置し、玄関には椅子を置いて靴を安全にはいたりできるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	手作りの日替わりカレンダーを食堂に貼ったり、居室入口にはそれぞれの花を飾ったり、トイレには大きく赤字で「便所」と表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームのすぐ前には畑があり、畑作り等も楽しめる。洗濯物も利用者の方と一緒に干せるように、ホーム内にも物干し場を設置している。		